

12 Zoom2によるオフィスホワイトニングの臨床成績

○松木麻美¹, 坂爪 恵¹, 鴨井公子¹, 小林 梢¹, 金子 潤^{1,2}

¹明倫短期大学 附属歯科診療所, ²明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords: 歯科ホワイトニング, 臨床成績, Fenton反応, オフィスホワイトニング

はじめに

歯科ホワイトニングのなかでオフィスホワイトニングは漂白効果の即効性を最大の特徴とする方法であり, その日のうちに歯を白くしたいと考える患者に最適である. 明倫短期大学附属歯科診療所では, オフィスホワイトニングシステムとしてZoom2 (Discus Dental) を2007年10月より導入している. 今回, Zoom2によるオフィスホワイトニングの臨床成績を整理・集計したので報告する.

対象および方法

2009年1月から10月までの10ヶ月間に歯のホワイトニングを希望して当診療所に来院した患者のうち, Zoom2によるオフィスホワイトニングを選択した10名(男性4名, 女性6名: 平均年齢40.3才)を集計対象とした. 術式は, ホワイトニング対象歯を歯面研磨後, 口唇や歯肉をプロテクトし, メーカー指示通りにプレトリートメントおよびホワイトニング剤を塗布後, Zoom2チェアサイドランプで15分間歯面を光照射した(図1). この処置を1回につき2サイクル行い, 術前



図1 Zoom2によるオフィスホワイトニング

および術後に口腔内写真撮影とシェードチェックで適法に従って歯の色彩変化を記録した. また, 術中の疼痛については随時歯科衛生士がモニタリングして対処した.

結果および考察

患者が色彩的に満足を得るまでの処置回数は平均 1.4 ± 0.5 回(1回6名, 2回4名)であり, 3回以上の処置を要した者はいなかった. 松風ハイライトなどのベーシックなオフィスホワイトニング剤では, 患者の満足を得るまでには3~5回程度の処置回数を必要とすることから, Zoom2によるオフィスホワイトニングで処置回数を減らすことが可能となった. 術前・術後のシェードチェックによる明度上昇ステップ数 Δsgu は平均 5.4 ± 3.9 (Range: 1-14)であった. Zoom2は過酸化水素(HP)の分解促進手段として鉄イオン(Fe^{2+})によるFenton反応を採用しており, この反応によるフリーラジカル生成増加を期待してHP濃度を25%に抑えている. しかしながら1-2回程度の処置により Δsgu が平均5以上の上昇を示したことは, 本オフィスホワイトニングシステムの臨床における有用性を示したと考えられる. また術中の疼痛出現状況は, 10名中2名に軽度の知覚過敏症状が現れたのみであった. Zoom2にはホワイトニングの副作用とされている知覚過敏症状緩和のために, ホワイトニング剤中に非結晶性リン酸カルシウム(ACP)が配合されている. また, 当診療所の処置サイクルをメーカー指示の3サイクルでなく2サイクルとしたことも副作用軽減につながったと考えられる.

まとめ

Zoom2の導入により, 従来よりもオフィスホワイトニングの処置回数を減らすことができた.